

本年度学校教育の努力点とその推進計画

主体的・対話的に学ぶ児童の育成 －「協働的な学び」の具体を目指して－

(1) 研究のねらい

令和の日本型学校教育の構築を目指して、名古屋市では子ども一人一人の興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進している。

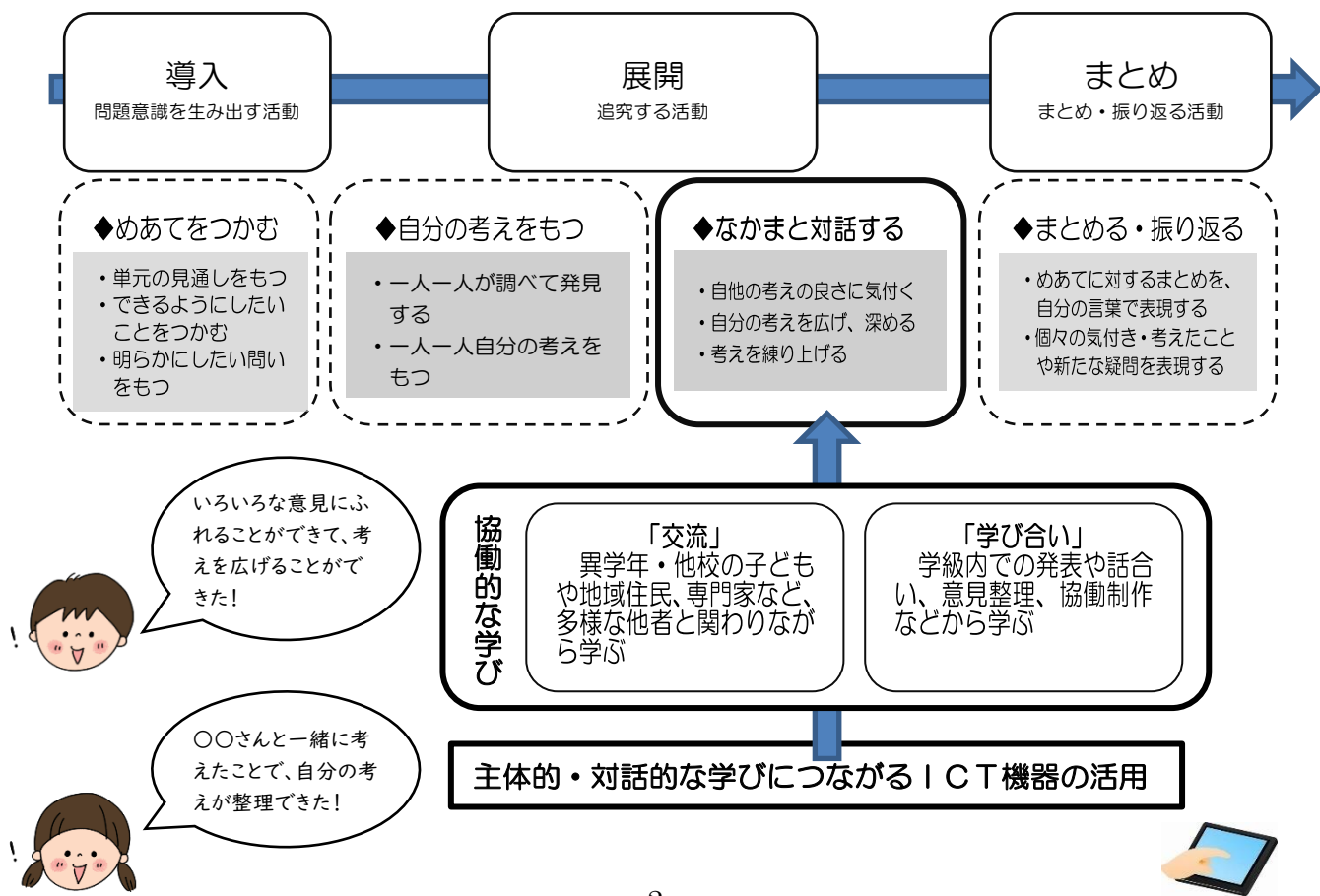
本校では、昨年度「主体的に学ぶ児童の育成」を学校努力点のテーマに、「なかまなビジョン」の学習過程を踏まえた授業づくりを行ってきた。特に、自分の考えをもつ場面では、ICT機器を活用して、積極的に調べる活動に取り組んだり、自分の考えをしっかりと表現したりすることができ、主体的に学ぶ姿が見られた。

しかし、なかまと対話する場面では、友達の考えの良さに気付き、自分の考えを広げたり深めたりする姿を十分に引き出すことができなかった。また、もっと効果的な交流や学び合いの仕方が必要だと感じた。

そこで、今年度は各教科の特質や学習目標を踏まえて、「協働的な学び」の充実を図ると共に、教材・教具や学習ツールの一つとしてICT機器を積極的に活用し、主体的・対話的に学ぶ児童の育成を目指していきたい。

＜目指す子ども像＞
協働的な学びを通して、主体的・対話的に学ぶ児童

「なかまなビジョン」の学習過程内における「協働的な学び」



(2) 研究の内容

① 指導の方法について

目指す児童像に迫るための手立てを明らかにし、実践に取り組む。その際、本校における努力点で示す「目指す児童像」を基に、各学年における具体的な「育てたい児童像」を設定し、その実現に向けた手立てを講ずる。

各学年で育てたい児童像（例）

〈育てたい児童像〉（例1）

交流や学び合いを通して、主体的・対話的に活動に取り組むことができる児童

〈育てたい児童像〉（例2）

主体的に調べる活動に取り組み、友達と対話することができる児童

〈育てたい児童像〉（例3）

友達の考えの良さに気付き、自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童

〈育てたい児童像〉（例4）

気付いたことや考えたことをもとに、友達と対話することができる児童

② 評価の方法について

各教科の評価規準に準ずる。

③ 研究の進め方

ア 児童の実態に応じて、質問紙およびインタビュー調査を行う。

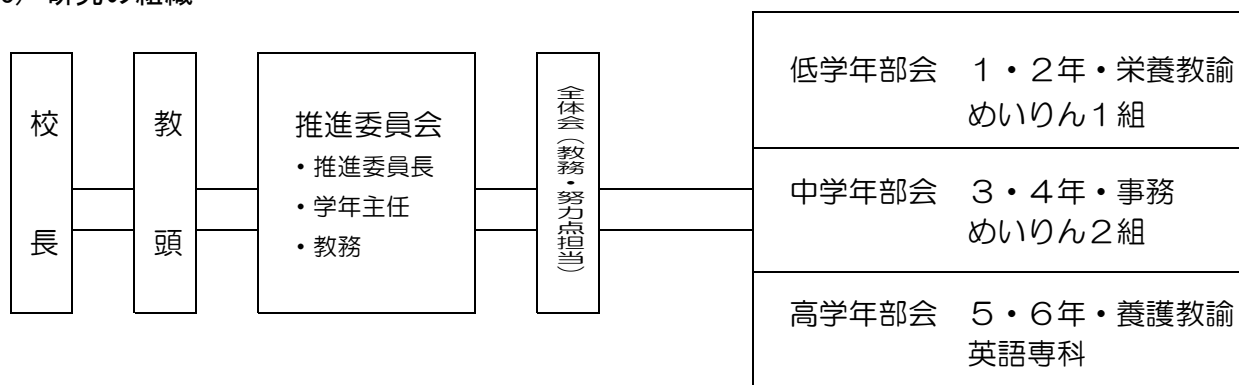
イ 低・中・高学年部会を位置づけ、学年の実態に合わせて、学年ごとにテーマを設定し、年間計画を作成する。

ウ 各学年の「目指す児童像」に迫るための手立てを明確にして、実践を行う。

エ 授業実践は指導案（略案）を作成する授業を1実践。簡単な授業案を作成する授業を1実践。合わせて各学年で年間2実践を行う。（各学級1実践）実践は、同じ実践を両方の学級で行い、先の授業を受けて授業改善をする。また、部会を中心に授業を参観し、事後検討会を行う。事前検討会については、学年を中心に行う。

オ 代表授業を1学級設定する。代表授業について事前と事後で検討することで、教員の授業力向上を図る。指導案は、細案を作成する。

(3) 研究の組織



○ 推進委員会

- 研究計画の企画や立案
- 研究に関する資料や情報の提供
- 全体会の実施計画の立案
- 各組織間の連絡調整

○ 全体会

- 組織からの提案内容について協議や連絡
- 授業研究を行い、主題の研究を深めることでの指導内容の改善
- 研究主題の共通理解

○ 部会

- 研究テーマの設定
- 授業研究の手立て、資料等の作成
- 部会ごとに授業を参観し、研究の内容や進め方についての検討